

## 平成 30 年度第 1 回伊勢市総合計画審議会 議事要録

- ◆日時 平成 30 年 5 月 15 日（火）19：00～20：25
- ◆会場 シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢 4 階大会議室
- ◆出席委員  
山本 誠委員、森 裕美委員、美濃 松謙委員、竜田 和代委員、池田ミチ子委員、  
永井 正高委員、山本 康史委員、岩崎 良文委員、西村 純一委員、西村 幸泰委員、  
新田 均委員、福井夏美委員
- ◆欠席委員  
酒徳 雅明委員、浅野 聡委員、三村 和也委員
- ◆出席職員  
情報戦略局【情報戦略局長、情報戦略局参事、企画調整課課長補佐、  
企画調整課主査 2 名】  
環境生活部【環境生活部長、環境生活部参事 2 名、環境課長】  
教育委員会【教育事務部長、教育総務課長、学校教育課長、学校教育課副参事、  
文化振興課長】  
健康福祉部【健康福祉部長】  
危機管理部【危機管理部長、防災施設整備課長】  
消防本部【消防長、参事 2 名、消防課長、予防課長】  
産業観光部【産業観光部長】  
都市整備部【都市整備部長、都市整備部参事、基盤整備課長、維持課長】  
上下水道部【上下水道部長】  
総務部【総務部長】

- ◆内容  
委員の交代 重松 玲 委員 → 福井 夏美 委員  
副会長の後任は、委員協議の結果、福井委員を選出。

### ◇会議録（要録）

以下の要録は、事務局により要旨を編集したものです。微妙なニュアンス等が表現されておきませんので、ご了承ください。

#### （1）前回の振り返り及びその後の経過について

第 9 回審議会（2/23）終了後、2/24 付けで審議会から計画案に対する修正依頼があり、一部を修正し、その他は現行どおりとしたが、パブリックコメントを実施するにあたり、計画案に実施機関の考え方及び論点に係る参考資料を添付し、審議会の考え方も公表して、4/2 から 5/1 の期間で幅広く意見を募った。

また、第 3 次総合計画（案）の説明会を 4/19、4/21 の両日で実施した。

そして、これまで継承してきた基本構想を変更するにあたり、地域審議会への諮問・

答申が必要であることから、4月20日から5月2日までの間に伊勢、二見、小俣、御園の各地域審議会を開催し、いずれの審議会でも基本構想については適当であるとの答申をいただいた。

## (2) 答申(案)について

パブリックコメントの結果概要と今回の計画(案)の修正箇所の説明を受け、答申(案)にどのような内容を盛り込むかについて意見を交わした。

### ○答申(案)について

#### 【基本構想】

- ・基本構想については、伊勢らしいものができたと思う。

#### 【計画全体について】

- ・策定した総合計画の内容を市の事業に反映するよう注視し、注力いただきたい。  
まず伊勢市民に広く普及・啓発していただきたい。読みやすい工夫や、計画の存在をPRすることに是非取り組んでほしい。  
国からの補助金など別の枠組みで実施する事業についても、基本計画のどの内容を実現するためのものかを是非意識できるよう明示してほしい。  
最後に今回の計画では所属別の縦割りにより目標を設定されたが、社会の課題は、横串を刺さないと解決できないことがたくさん出てきている。伊勢市でも横串を評価できるような指標について研究を続け、横串の評価軸を取り入れる意識をもってほしい。

#### 【分野別について】

- ・基本計画の「第2章教育」を除く分野は、概ねこのとおりです承
- ・今回伊勢市での郷土教育などの考え方を聞かせていただいたが、出雲市では、出雲大社のパンフレットを市で作成し、小学6年生が修学旅行先の広島で広島市民にPRを行い、また神話と史実の結びつきによるプライド創発に取り組んでおり、県教委が小学生を対象にした副読本を作成し、神話を題材にした地域教育に取り組んでいるなど、全国では様々な取組が行われている。
- ・今回のパブリックコメントの結果で、意見数が多く、教育に関し、市民の関心が高いと感じた。事務局はどのように感じたか。関心が高かったことを受けて、市民意識をもっと掘り下げて把握するなど検討してほしい。  
→神宮に関しては、極端な両方の意見があり、色々な考えをお持ちの方がみえると感じた。今回、このような議論は地域のことを考える取っ掛かりになったと思う。どのようなことをこれから実施していくべきなのかを答申に込めていただければと思う。
- ・極端な両論というが、神宮のことを教えてほしいというのは、伊勢市民の素朴な感覚で、それを極端というのはおかしい。パブリックコメントで住所と名前を聞いた理由は  
→意見内容等の確認を行う場合のためのものです。
- ・男女別や年齢、職業はわかるのか。  
→その記述は求めているない。

- ・もっと正確にこの問題についての市民の意識を知るために、市民アンケートに「郷土教育」や「神宮に関する教育」の項目を入れるべきだ。
- ・パブリックコメントの回答は、同じような内容を転写しているように感じた。それぞれの意見は実体験なども踏まえ書かれていると思うので、意見した人が見たら不平不満があると思う。外国にいった人の例の中で、地元の神宮に関し話せなかったことなどについて、学校関係者の方はどう感じているか？  
→どのように感じているかは把握していないが、様々な意見がある中で、いろいろな捉え方があると思うが、郷土を知ることに関しては、学校だけでなく、地域など様々なところから学んでいくものであると考える。
- ・教育は、産業に関わっていくと思う。今までの教育を受けている子供たちが子供を生まない。子供たちが減っていくのを食い止めるため、自身の生まれたまちで仕事をして生活したいという意味でも必要。パブリックコメントでいただいた意見は貴重なもので、宝として残し、今後しっかり分析等していただきたい。
- ・審議会（案）に対する賛否双方の意見に大切なものがあると思う。伊勢神宮が天皇とつながる中での国家神道との絡みがあったとの感覚をお持ちの方の意見も大事であるし、郷土愛、自分達の育ったまちや地域のことを知らずに、世界へ飛び出すことによる文化感、自分が根ざしているところがかめめないなどの意見も大事である。地元のことを話せることは外国に行って役立つ。教養として地域のことを伝えることは大事であるが、ただそれが神宮なのかという意見もたくさんあったと思う。宗教としての教育ではなく地域の教養、アイデンティティを育てるための「伊勢を知る」ことが大事であり、出て行った人が伊勢の良さに気づいて戻ってくることにつながると思う。神宮についてまったく触れないのはおかしいと思うが、「神宮」を全ての枕詞に入れると、他の切り口で伊勢市を愛する方もたくさんいるので反感を持たれると思う。落としどころをどうするか考えるべきだ。
- ・行政を一つの企業として捉えたら、パブリックコメントに対する市の考え方は、このような書き方になる。個人の意見で書いていたら計画はできない。トップを頭にして色々な意見があり、それを集約しているので、全ての人が満足するものは難しい。その中で行政は進めていく計画を立てなければいけないが、今回の行政のパブリックコメントへの答えは恥ずかしいものではないと思う。
- ・神宮、神道という言葉は伊勢市では出てこざるを得ない。あまり過激に反応せずに教育現場でできることできないことがあると思うが、郷土を理解するために学校教育で神宮のことはできる範囲で触れてほしい。
- ・基本構想のまちづくりの基本理念に「神宮ゆかりの地」が入っていたので、それを教育に落とす時、どうするかで問題になっていた。「神宮ゆかりの地」が市民の「まちへの誇りと愛着」につながっている点が大切で、それをどのようなやり方で培っていくのかを工夫することが大切だと思う。
- ・パブリックコメント結果の情報も早くいただき、もっとじっくり考える時間がほしい。
- ・企画調整課と教育委員会の努力には敬意を表したい。76人といういままでにない数

のパブリックコメントが寄せられたことは、総合計画への関心を高めた点で評価できるのではないかと。ただし、まちづくりの基本理念③と教育分野との関係に大きな課題のあることも明らかになった。審議会の意見を懸念する意見もあるが、全く教育をしなくてよいと言う意見は極少数だった。総じていえば、郷土や神宮に関する教育については期待が6割、懸念が4割ということだろう。市民の6割が望んでいることは無視できないので、市民の願いを実現し、懸念を払拭する課題解決型の市政が必要ではないか。今日の計画の修正案で、郷土を知るに関係し、第1章第1節の「コミュニティ」に入れてもらっていたが、複数の分野の連携や協働による解決という方法もあるだろう。

・宗教に関する教育については、他府県の教育委員会の取組例、他国の実態などについての理解を深める取組も必要だろう。

・答申を受けて、市長に最終的な判断を下していただくとともに、コメントもいただきたい。

○以上の議論の結果を会長がまとめて答申案を作成することで異議なく了承された。

○次回について

・次回（第2回）審議会（5月21日）には、今回の意見を踏まえた答申案を審議する。